

スポーツ界への貢献を目的としたリゾート MICE の推進

～2020 年東京五輪開催に向けて～

株式会社プリンスホテル
原 千明



1. はじめに

2015年にイングランドで開催されたラグビーワールドカップ（W杯）は記憶に新しい。この大会の1次リーグでW杯通算1勝の日本は2度優勝経験のある南アフリカを後半終了間際、34対32と逆転し勝利した。この光景を見た瞬間、日本人としての誇りと勇気と深い感動を胸に覚えたのは私だけではないはずである。おそらく多くの国民が同じ思い、同じ感動を胸に抱いたのではないだろうか。

そして、後にこの試合はファン投票によって「W杯の最高の瞬間」賞に選ばれた。このようにスポーツはラグビーに限らず世界中の多くの人々に夢や、感動や勇気を与えることができる本当に素晴らしいものなのである。

本論文では2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した今、ホテル事業に携わる我々がMICEという手段を通じて、スポーツ界にどのような貢献が出来るのか、また、スポーツ団体の誘致により繁閑差の大きいリゾートホテルの収益をどのように押し上げることができるのか、実際に開催されたリゾートMICEの例を参考にしながら考えていきたい。

2. スポーツ界を取り巻く状況

(1) 大規模国際大会の準備・開催による経済効果

1998年長野冬季オリンピック開催に伴う経済波及効果(※1)は、2兆3,244億円、サッカーの世界カップでは、2002年(日韓共催)W杯の経済効果(※2)が3,690億円、そして2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う経済波及効果は、約3兆円、雇用誘発数は約15万人(※3)と言われている。約3兆円は、千葉県の間年予算1兆5,494億円(2010年度)のほぼ倍、約15万人は埼玉県入間市の人口(2010年)に匹敵する数である。

(2) スポーツ産業の経済規模

レジャー白書(※4)によると2012年の余暇市場は全体で64兆7,272億円となり、2011年の64兆9,410億円から前年比0.3%減と、ほぼ横ばいで推移した。その1部門であるスポーツの市場規模は、前年比0.6%増の3兆9.150億円となった。その後、スポーツ部門は2013年に前年比0.1%増、2014年には0.7%増と3年連続でプラスとなった。スポーツ用品では、スポーツシューズ、スポーツ自転車、ランニング用品、登山・キャンプ用品の堅調さが目立ち、テニススクール、フィットネスクラブ、スキー場に回復傾向がみられ、スポーツ観戦が大きく伸びた。このように日本の人口が2011年から減少に転じる中、市場規模を着実に拡大するスポーツ部門は成長分野であると言える。

(3) 国策としてのスポーツ

2010年8月26日に文部科学省より発表されたスポーツ立国戦略(※5)には、我が国の「新たなスポーツ文化の確立」を目指し、

- 人(する人、観る人、支える(育てる)人)の重視
- 連携・協働の推進

を「基本的な考え方」とし、「実施すべき施策を総合的かつ積極的に推進し、我が国の一層のスポーツ振興に取り組むことにより、スポーツ立国の実現を目指す」と謳われている。

また、「戦略の策定を機に、より多くの人々がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、支え、育てることを通じて、スポーツの持つ多様な意義や価値が社会全体に広く共有され、我が国の『新たなスポーツ文化』が確立されることを切に期待する」とされている。

その後、2012年3月30日には「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出」を目指し、「スポーツ基本計画」が策定された。

この中には、新しい時代にふさわしいコーチングや女性アスリートの育成・支援なども含まれている。

3. 思いをかたちに

(1) 共感から生まれる MICE

はじめは一人の人間の「熱い思い」である。東京オリンピック・パラリンピックの開催まで 5 年を切ったが、女性アスリートへのサポートが強化される一方で、女性コーチやサポートスタッフに対する取り組みは十分に行われていない。

NCAA (全米大学競技スポーツ連盟) が実施している女性コーチに対する取り組み等を参考に、日本における女性コーチ教育コンテンツを具現化した「女性コーチアカデミー」の創設が急務であると、順天堂大学大学院スポーツ科学研究科の小笠原悦子教授 (女性スポーツ研究センター長) は考えた。この「女性コーチアカデミー」は、女性コーチひとりひとりの資質向上を目指し、世界に羽ばたく女性コーチを支援することが目的である。

この構想を教授から打ち明けられた私は深く感銘し、当社の施設でお役に立てるよう協力することをお約束した。

(2) 企画段階からの参画

「女性コーチアカデミー」を成功させるために主催者とホテル側が一体となり、複数回に亘る打合せを行った。まず重要視されたのは開催場所の選定である。そこで、私が強くおすすめしたのが、長野県軽井沢町の軽井沢プリンスホテルである。その理由としては、

① 全国各地から参加される受講者を考えたときのアクセスの良さ。

東京から軽井沢までは北陸新幹線で約 1 時間。金沢までの延伸開業により、関西・中部・北陸からのアクセスも良好となった。

② 魅力的な付帯施設

特に増床された軽井沢プリンスショッピングプラザ (軽井沢アウトレットモール) や温泉施設は、参加される方々に大層喜んでいただけるはずである。

③ 国際会議にも対応できる施設

大規模な国際会議開催にも対応可能な会場、使い勝手に合わせて利用できる客室や同時通訳サービスで海外のお客さまをお招きする際も安心。

④ 豊かな自然環境

標高約 1000 メートルの軽井沢は「屋根のない病院」とも評され、その新鮮な空気や草花、緑あふれる敷地はまさに自然の宝庫である。

⑤ 世界で唯一、夏・冬のオリンピックを開催

1964 年の東京オリンピックでは総合馬術競技を開催、1998 年の長野冬季オリンピックではカーリング競技が開催され、世界で唯一夏・冬 2 度のオリンピック会場となった町である。

上記のような提案により「女性コーチアカデミー」の開催場所は軽井沢プリンスホテルに決まり、日程も夏休みの繁忙期が過ぎた9月の平日に2泊3日で決定した。

このようにリゾート MICE の誘致に関しては、お客さまの立場になり、自社の施設を売り込むだけでなく、その地域に目を向け、歴史や特性、強みを強調することにより、「点」ではなく「面」としての提案をしていくことが大切であると考えている。

また、もう一つの大切なこととしてリゾートに限らず、MICE 誘致にあたっては、ホテルが主催者の事業目的を共有するパートナーであるという意識を強く持ち、主催者側の考えや思い、意図するところを十分に理解したうえで、主催者側にしっかりと寄り添い、深層までの打合せを行い、そのニーズに的確にお応えすることが大切であると考えている。

4. 日本初の「女性コーチアカデミー」を軽井沢で開催

プリンスホテルのホームページには、「集う人々が心をシェアし、チームや組織を活性化させる、多彩な MICE STYLE を提案します。」と記載されている。

ここからは、実際に開催された「女性コーチアカデミー」で何が起り、何が変わり、何が生まれたのか、プログラムに沿って検証していきたい。

(1) 第1日目

参加者約 30 名、講師陣延べ 15 名、スタッフ 4 名によるアカデミーのオープニングでは、陸上やテニス、バスケットボール、サッカー、柔道、剣道など、競技や専門種目も異なる全国から集う参加者同士が、いかに短時間でコミュニケーションを図ることができるかを考え、進行内容やあらかじめ参加者全員分の顔写真付きプロフィールを壁一面に張り出すなど、会場の仕掛けづくりにも工夫を凝らした。参加者のおよそ半数は、自らも競技者としてオリンピック・パラリンピック、世界選手権、アジア大会など、日本代表選手として出場経験のある元アスリート達である。

初日はプロフェッショナルとしてのコーチングなどの講義が行われ、途中の休憩時間には参加者が隣の会場に用意されているお茶やコーヒー、スポーツドリンク、栄養補助食品、ジュースやキャンディ、プチケーキなど、通常では考えられない数々のアイテムを思い思いに楽しんだ。

この会場セッティングで意図するところは2点である。

- ① 講義と休憩のメリハリをつけ、しっかりと講義に集中して臨める環境を整えること。
- ② Incentive (インセンティブ) にも通じる受け入れ側の気持ちを十分に表すこと。

インセンティブという言葉は、ラテン語の「励ます」が由来であり、その意味は、「やる気(を起こさせるもの)」、「駆り立てるもの」、「激励」、「奨励」、「刺激」などである。MICE の世界では、「褒賞旅行」と訳しているが、本来の意味は「何かの成果を上げた人に対する褒賞」である。

この場では主催者側から参加者である女性コーチ達に対する大きな期待を表現した。

初日の締めくくりとして、夕食後に自由な雰囲気で行われたラウンジセッションでは進行役が参加者それぞれの状況・立場に即した質問を投げかけると、参加者はそれぞれの思いを語り始め、自分の進もうとしている方向性に迷うコーチの質問には、答えられる参加者が回答し、指導上の論理的な内容については、講師陣が回答するという、理想的なラウンジセッションとなった。

会場は、通常一般営業を行っているラウンジを貸切りとした。ガラス張りのスペースは、夜の軽井沢を感じる最高の雰囲気があり、あえてこの会場を選定することとした。

カウンターにはワインをはじめ、色とりどりのカクテルが用意され、参加者もこの時にはかなりリラックスした状態で、様々な事柄について深く語り合い、より一層の親密度を深めることができた。主催者側にとっては会場貸切りがコスト面で負担となるが、重要な場面として投資効果が高いと判断していただいた。また、宿泊については8名用のコテージを基準とした。このタイプは4隅にツインルームが配置され、中央にはリビングルームが配置されており、参加者同士のコミュニケーションを重視した最適な選択となった。

(3) 第2日目

朝食会場は講義会場の隣に特設で用意した「女性コーチアカデミー」専用のバイキング会場である。一般の宿泊客とは別にすることで、一体感を生み出し、昨晚から続く熱いセッションに連続性を持たせるのが狙いである。朝食後、流れるように講義が始まった。第2日目は、コーチのためのキャリアプランニング、コミュニケーションスキル、ワークライフバランス（妊娠・出産を経験する女性は、プロフェッショナルとしてコーチを続けるために、職場やパートナーから、ライフイベントごとに合わせたサポートが必要である）などの講義が行われた。

ホテル側では今回の「女性コーチアカデミー」受入れに際して、参加者・スタッフが安心して講義に集中できるよう「託児サービス」を提供した。もし、このサービスが無かった場合、参加したくても参加がかなわない女性コーチやスタッフが存在したはずである。女性の活躍が叫ばれている今、ホテル業界はこのようなサービスを充実させるべきであるし、高まる社会からの要求に応えられる環境を整えるべきである。

夕食後に行われた2日目のラウンジセッションでは、昨夜よりもさらにヒートアップした議論が展開され、参加者たちはコテージに戻ったあとも夜が更けるまで、日本スポーツ界の将来について熱く語り合った。

(4) 最終日

最終日に行われたネットワーキングでは、2020年東京五輪に向け、それぞれ自分には何ができるかをチームごとに話し合い発表するという課題が出された。チームごと、さらには、個人が達成したいと発表されたこの目標は、まさに、自身の環境に即したそれぞれの目標となった。参加者たちは、同じビジョン・目的意識をもった仲間と助け合いながら、実現に向けて努力していくことを誓いあった。

また、参加者・講師による自発的な発案により、その意思を記した「軽井沢宣言」が生まれ、参加者、講師、スタッフ全員が署名を行った。

「軽井沢宣言」

私たちは、日本のスポーツ界の発展に向けて、女性の力をさらに活かすために2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、すべての女子種目の監督を女性にすることを実現するために行動を起こします。

(5) クロージング・修了式

共に学び、ディスカッションを重ねてきた仲間・講師との3日間を映像で振り返ると、会場は感動的な空気に包まれた。

この映像を使用した振り返りは、結婚披露宴のエンディングをモデルにしたものである。最後に、主催者である女性スポーツ研究センターの小笠原悦子センター長より、これから日本の未来を担う女性コーチに向けて力強いエールが送られた。参加者、講師、スタッフの間には、まるで1つのチームのような一体感が生まれ、今後の情報交換、目標の実現に向けた努力を誓い、「女性コーチアカデミー2015」は修了となった。

5. おわりに

政府が閣議決定した2016年度予算のスポーツ関連は324億円が計上された。2015年度当初予算に比べて34億円増(11.7%増)。2020年東京五輪・パラリンピックに向けた競技力向上や新しく発足したスポーツ庁の幅広い施策が盛り込まれ、初めて300億円を超えた。文部科学予算全体が0.2%減と抑えられた中での2桁増は期待の大きさがうかがえる。

さて、スポーツに限らず医療や科学技術、宇宙開発など、いったい人間の可能性はどこまで広げられるのだろうか、答えはおそらく無限であろう。

デジタル社会が急激に進化している今だからこそ、人間らしいFace to Faceのコミュニケーション、人間的な語り合いとふれあいの時を共有することが重要であり、必要である。

軽井沢プリンスホテルで行われたスポーツ分野でのリゾートMICE、第1回「女性コーチア

カデミー」を通して、MICEによって本当に「何かが生まれ」、「何かが解決し」、「信頼関係が生まれる」ことを実感することができた。またホテル側の提案力とサービスの質が、目的の達成にも大きく影響することを確認することができた。そしてさらには「主催者が満足する優れた提案が、ホテル側の収益を押し上げる結果にもつながる」ことがわかった。

今回、軽井沢プリンスホテルで開催されたリゾート MICE がスポーツ界の未来に良い変化をもたらし、少しでもスポーツ界への貢献になれば幸いである。

今後もホテル事業において MICE を推進していくにあたり、主催者の事業目的を達成させるために、目には見えない価値、「主催者にしっかりと寄り添う『心』」を持ち、誠心誠意、真摯に対応することが大切であると考えている。そして時には、ホテル側が決めたルールをも超えた臨機応変に対応できる柔軟な姿勢も大事にしていきたい。そしてその上で、学んできたマーケティングやレベニューマネジメント、IT の技術などに磨きをかけ、MICE の限らない可能性を信じ、MICE を通じて広く社会に貢献できるよう努めていきたい。

最後に、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での日本代表選手の活躍を心より祈念する。

- ※1 一般社団法人長野経済研究所機関紙「経済月報」1998 年 7 月号
- ※2 2002 年サッカー・ワールドカップの経済効果（株式会社第一生命経済研究所 経済調査部）
- ※3 特定非営利活動法人東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会
東京都スポーツ振興局
- ※4 レジャー白書 2013・2014・2015／公益社団法人日本生産性本部
- ※5 スポーツ庁 HP／政策一覧／スポーツ立国戦略／平成 22 年 8 月 26 日 文部科学省
参考資料・文献

- ・マイス・ビジネス概論／浅井新介著／2014 年 12 月 24 日初版発行／横浜商科大学
- ・マイス・ビジネス入門／浅井新介著／2015 年 11 月 22 日初版発行／一般社団法人日本ホテル教育センター発行／プラザ出版
- ・女性スポーツ研究センターHP／女性コーチアカデミー2015 実施報告
- ・総務省統計局 (<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm>)／人口推移と将来人口、都市別人口
- ・日本経済新聞 2015 年 12 月 25 日朝刊

参考講義

- ・Incentive 成功の秘訣／浅香雅司先生講義
- ・MICE プロモーション／川島久男塾長講義
- ・MICE 投資対効果／徳永清久副塾長講義
- ・Meeting/Event マネジメント／前野伸幸先生講義